

【論・旭川】 掲示板

旭川や地域に関する話題や情報なら基本的にどんなことでも書込みOKです。
もちろんサイトに関するご意見・ご感想・誤りご指摘等大歓迎です。
私momongaも自分なりに気になった話題があればブログ代わりに書込みます。



誹謗中傷やマナーに反する投稿については管理者権限において警告あるいは削除いたします。
また宣伝広告の無断リンク等の行為はアクセス制限の上無条件に削除いたします。

なお当掲示板は画像添付やタグの使用が可能ですがあまり極端な使用はお控えください。
特に文字サイズの乱用は掲示板全体を見づらくしてしまいます。
画像については容量1MB以内を同時に3枚まで投稿可能ですが実際には横サイズ400ピクセル相当に縮小表示されます。
投稿画像は画像をクリックすると最大800×600のサイズで見ることができます。
1MBを超える画像は投稿時エラーになりますので適切なサイズに縮小の上ご投稿ください。

[Reload](#)

【重要】teacup_byGMOのサービス終了について

<思いやりのあるコミュニティ宣言>
teacup 掲示板は、皆様の権利を守りながら、思いやり、温かみのあるコミュニティづくりを応援します。
いつもご協力いただきありがとうございます。

投稿者

メール

題名

投稿

確認

内容



入力補助



画像・ファイル

 youtubeの<IFRAME>タグが利用可能です。

[\(詳細\)](#)

URL

[[ケータイで使う](#)] [[BBSティッカー](#)] [[書込み通知](#)] [[検索](#)]

キーワード: [旭川](#) [情報](#) [歴史](#) [[その他](#)]

検索

《 [前のページ](#)

[1](#)

[2](#)

[3](#)

[4](#)

[5](#)

[6](#)

[7](#)

[8](#)

[9](#)

[10](#)

《 [次のページ](#) 》

全1586件の内、新着の記事から50件ずつ表示します。

便利な時代。。。 投稿者: [旭川の人](#) 投稿日: 2018年 7月22日(日)23時20分41秒

[返信・引用](#)

旭川市史稿の該当ページ。うろ覚えでしたがGoogleブックスで見つけられました。

<https://books.google.co.jp/books?id=m8gBAz-qZugC&pg=PT570&dq=旭川市史>

稿%E3%80%80北斗
 &hl=ja&sa=X&ved=0ahUKEwjJo42H96_cAhVRFYgKHVlABZwQ6AEIJDAAN#v=onepage&q=旭川
 市史稿%E3%80%80北斗&f=false

Re: 言葉足らずで。。。 投稿者: momonga  投稿日: 2018年 7月22日(日)23時18分52秒

[返信・引用](#)

旭川の人さんへ

おっしゃる通り、戦前の『旭川市史稿』では逆に「日章」の言葉を使っています。ただ、戦前に旭日の言葉を使う事をはばかっていたなんて事は有り得ないと思いますよ。要するに、旭日も日章も、両方とも戦前戦後を通じて抵抗なく使われていた言葉だという事に尽きると思います。ですから『旭川市史』でも旭日の解釈が成されたのだと思いますし、それこそ五十嵐市長の時代ですら市の刊行物で旭日が使われていたくらいですからね。

私の疑問は、”新旭川市史の時代”になって、何故また日章に変えたのか？という事なのです。

Re: マニアックさん 投稿者: マニアック 投稿日: 2018年 7月22日(日)23時09分23秒

[返信・引用](#)

> [No. 1483\[元記事へ\]](#)

momongaさんへ

> 奥田町長の「日象」の意図はともかく、この世代の人々にとってごく普通の表現である旭日を、旭川に掛け合わせて使っただけではないでしょうか。

軍事的なことは、排除してみるのがよいでしょう。デザイン図案は正直です。日章と旭日は、違う図案ですし、戦前の市長は、どなたも使い方のプロトコルを知っていて当然です。区別して使うのが当然で、だから日章旗と旭日旗の二つが存在します。デザインは誤解されないことが極めて大事なことです。ですので、旭日には条光をいれませし、条光の本数も意味があります。

条光のないものを旭日と解説するのは、少なくとも市史の正しい解説ではありませんよ。そう解説すると、条光の入っている方をどのように説明いたしますか？元々、日章(日象)なものを、デザインやマークの使い方に詳しくないどなたかが後から旭日としたのでしょう。

この旭川のマークは、町長さんのデザインなんですね。とても素人のデザインとは思えないくらいに洗練されよく考えられたデザインです。旭日をイメージされているのであれば、どこか図案に残すでしょうね。強引に日章と誤解される図案にはしないでしょ。

> むしろ余計な気を使ってこれを修正した『新旭川市史』の戦後世代の編集委員の方に、マニアックさん言われる「軍都コンプレックス」を感じないでしょうか？

軍都コンプレックスはまったく感じません。旧にしる新にしる随分ズサンで、少し斜に構えてみなければならぬものなのだなあと感じましたが。上川神社の社紋は、朝日にかけて「山桜花」です。ご存知ですよ。上川神社の名前の文字に旭川が含まれていない理由、忠別神社でもございません。でも山桜花で旭川。山桜花を社紋にしている神社は珍しいですから、みなさん由緒は気になります。本居宣長の和歌を教えてください、納得する。スマートな図案ですね。

> 申し訳ありませんが、これはいったい何をおっしゃりたいのかよく分かりません。

そうかもしれませんね。なぜ北京を設けたかったかの本質ですしね。いろいろな考えの方もありましょ。

言葉足らずで。。。 投稿者: 旭川の人 投稿日: 2018年 7月22日(日)21時29分37秒

[返信・引用](#)

こんばんは
言葉足らずで申し訳ございませんが、市史と書き込んだのは、昭和6年刊「旭川市史稿」です。デザインは北斗星に赤色日章。決定は管理人さんが書かれているとおりの明治末。

旭川市役所は戦前期から「旭日」に言及することを避けていたのか、そうであったら何に配慮していたのか。御教授いただいた「旭川80年のあゆみ」は五十嵐市長の時代に発行されたようですが、ここにも何らかの配慮があったのか。モリカケ問題を彷彿とさせる疑惑ですね。

Re: マニアックさん 投稿者: momonga 投稿日: 2018年 7月22日(日)20時30分15秒

[返信・引用](#)

> [No.1482「元記事へ」](#)

私が言った事とニュアンスが変わってしまってますね。
と言いますか、マニアックさん自身が言われた「軍都コンプレックス」とも随分矛盾してませんか？

昭和34年旭川市発刊の『旭川市史』は、村上久吉氏を中心とする編纂委員によってまとめられました。
村上氏は明治生まれであり、他の編纂委員も編纂時期から鑑みて明治大正世代の方々を中心だったと思います。
彼らからしてみれば旭日というのは朝日を表す一つの表現に過ぎず、“うさん臭い”他意があったとは考え難いです。
「旭日旗」ではなく「旭日」ですから、必ずしも光条が描かれている必要はありません。
奥田町長の「日象」の意図はともかく、この世代の人々にとってごく普通の表現である旭日を、旭川に掛け合わせて使っただけではないでしょうか。
むしろ余計な気を使ってこれを修正した『新旭川市史』の戦後世代の編集委員の方に、マニアックさん言われる「軍都コンプレックス」を感じないでしょうか？

>奥田町長が旭日をイメージ、またその後の軍歴がある市長や、台湾総督府に勤務歴のある市長もみなさん旭日の解釈というのであれば、北京なんて茶番だと言っても怒られませんよ。
>旭川市は、「開拓使政府のもとで日本軍が保護をしている外地」だと言っているような解説になりますから、そんなところに天皇の避暑地がそもそもできるわけがございません。

申し訳ありませんが、これはいったい何をおっしゃりたいのかよく分かりません。

(無題) 投稿者: マニアック 投稿日: 2018年 7月21日(土)23時17分30秒

[返信・引用](#)

momongaさん

「北斗星に旭日」ですか。
マークは、「五稜星の中心に日章」すなわち北京を宣言するデザインと試してみました。真ん中の日章には、もちろん旭光の図案が入っておらず、momongaさんがみた旭川市史の旭日という解説は、うさん臭さが漂いますね。「あさひ」にかけてちょっと洒落を言っていましたごめんなさいということで新旭川市史で修正しているのであれば許してあげてもよいのでは？

奥田町長が旭日をイメージ、またその後の軍歴がある市長や、台湾総督府に勤務歴のある市長もみなさん旭日の解釈というのであれば、北京なんて茶番だと言っても怒られませんよ。

旭川市は、「開拓使政府のもとで日本軍が保護をしている外地」だと言っているような解説になりますから、そんなところに天皇の避暑地がそもそもできるわけがございません。

勿論、愛別の旭日の場合は、開拓使関連の図案と組み合わせておりませんし。違う意味のデザインであることはきちんと説明されていますね。

近文神社の上川神社への合祀を仲介したのは、奥田町長？でしたね。
神社の名前がアイヌ語由来で、祭神はご存知の通り。

合祀後は一時期だけお旅所になり、金刀比羅神社として再建。
筋交いや擬宝珠が特徴的な謎神社ですね。

今日は、上川神社例大祭でございます

(無題) 投稿者: [旭川の人](#) 投稿日: 2018年 7月21日(土)18時55分46秒

[返信・引用](#)

丁寧なご回答ありがとうございます。
「軍都コンプレックス」は私には何とも難しく良く理解できませんが、旭日については旭川市の見解が時代の空気により揺れている、忖度が行われているということでしょうか。。。
大変勉強になりました。

旭川市の徽章について 投稿者: [momonga](#) 投稿日: 2018年 7月21日(土)10時34分26秒

[返信・引用](#)

>旭川の人さん >マニアックさん

旭川の人さん、はじめまして。
少々言葉足らずで申し訳なかったですが、正に当を得たご質問ありがとうございます。

旭川の人さんがご覧になったのはたぶん新旭川市史がソースになってるものと思われます。
新旭川市史の解説では確かに「日章」となっていますから、現在の旭川市の公的文章は全て「日章」のはずです。
ところが、(旧)旭川市史の解説では、「旭日」だったのです。
ですから昭和45年旭川市が発刊した『旭川80年のあゆみ』でも「北斗星に旭日」と紹介されています。
全てを確認してるわけじゃないですが、新旭川市史が出るまでは「旭日」を使っていたはずですよ。

現在の徽章は、明治44年に制定されましたが、原案は当時の奥田町長であり、その手書きデッサンでは「日象」なのです。
つまり、(旧)旭川市史ではこれを「旭日」と解釈されていたものが、新旭川市史では「日章」に変えられているのです。
これこそ今話題としていた「軍都コンプレックス」ではないでしょうか？

>マニアックさん

残念ながら、近文神社の件は私もわかりません。
近文神社は、近文3線1号、現在の大町10丁目付近にあったと思いますが、以前、あの辺りに小さな祠が残っていたのを私も覚えていますが（今は階段以外無くなっています）、
建物がまだどこかに残っているんですか？

旭日 投稿者: [マニアック](#) 投稿日: 2018年 7月21日(土)07時41分45秒

[返信・引用](#)

> [No. 1476\[元記事へ\]](#)

momongaさん

旭日のマークは、愛別ではないのですか？
旭川市のマークに旭日と書いてあれば、誤植のようにも思います。
どこが、旭光、朝日なのかさっぱりわかりません。

旭川の徽章 投稿者: [旭川の人](#) 投稿日: 2018年 7月20日(金)20時51分32秒

[返信・引用](#)

こんにちは
「大正時代に制定された旭川の徽章の説明も、現在では「北斗星に日章」となっていますが、本来は「北斗星に旭日」です。」とのことですが、私が以前に読んだ旭川

の市史では、日章と書かれていたように記憶しています。市役所が出した本に嘘が書かれているとは、ちょっと信じられませんが。。。

(無題) 投稿者: マニアック 投稿日: 2018年 7月20日(金)00時27分0秒

[返信・引用](#)

町村さんは、本土決戦直前に警視總監に就任したものの、宮城事件の責任を問われ辞任。戦後は公職追放。五十嵐さんは、第7師団で本土決戦に備え、レンガ造建物の改修？の日々。そして師団所属で終戦。
時は経過し、町村さんは知事。五十嵐さんは市長になります。
五十嵐さんは市博物館の移転をお願いする。町村さんは知事でありながら、元内務官僚であったためだと思いますが、北海道護国神社の造営奉賛会の会長もしており、偕行社の前庭にあった北鎮神社をどうするか。。。考え中(合祀はできないでしょうから)。いずれも、軍都の課題を開道100年事業の予算で実施でしたという結果でしょうから、あうんの呼吸というやつですね。それに前後して、皇太子殿下、天皇陛下が札幌・旭川にいらしており、保革に関係なく、ブレたり、二言を呈して人心を惑わすことはありえないわけです。

彫刻美術館は、このほど棟札を公開しました。これで大倉財閥からの寄付であったことが広く知られることになりましたが、もう一つ、永山武四郎氏のお願ひによって大倉財閥が寄付した建物が現存していますね。最終的に上川神社に合祀されることになる近文神社のことですが、同神社の社掌は、上川神社でも永山神社でもなく、旭川神社の兼務社だった。なぜなのでしょうね。momongaさんはお知りですか？

Re: 川島洋一先生 投稿者: momonga 投稿日: 2018年 7月19日(木)22時17分11秒

[返信・引用](#)

> [No. 1475\[元記事へ\]](#)

マニアックさんへ

なるほど、「軍都コンプレックス」とは当を得た言葉ですね。(^^)

そうなんです。

旭川は、自らをかつての軍都と称しながら、その実、それをボカそうとしてきた節があります。

地名由来がいい例で、旭川の名にはアイヌ語意識と大日本帝国に縁ありとする2つの意図が含まれていますが、もっぱらアイヌ語意識のみしか触れられません。

常磐公園入口にある永山武四郎の像は軍服を着てませんし、大正時代に制定された旭川の徽章の説明も、現在では「北斗星に日章」となってますが、本来は「北斗星に旭日」です。

建物に限らず、旭川の歴史を紐解いて行くと、随所にこういった隠匿を施されている事が見受けられます。

おそらく、師団通りを平和通りに改名したように、意識して旧軍のイメージを排除しようという時期があったせいではないかと私は思ってますが、

革新思想に限らず、一般市民にもそういう意識があったのは確かなわけで、そういう意味で「軍都コンプレックス」という言葉の方が適切かもしれませんね。

ただ、私が思うに、もういい加減このコンプレックスから抜け出して、旭川の歴史を本音で語るべきだと考える次第です。

(実際には今の市民の大半はコンプレックスなど持ってる世代と思えませんが、市史が旧来のコンプレックスを抱えたままです)

ちなみに私は、五十嵐公三氏の最大の功績は、偕行社を残した事だと思っておりません。

Re: 川島洋一先生 投稿者: マニアック 投稿日: 2018年 7月19日(木)00時04分59秒

[返信・引用](#)

> [No. 1474\[元記事へ\]](#)

momongaさんへ

私は考える会の人ではありません。
あの会は、市内の建造物を所有されているが、ポンコツと思っていた所有物の価値を、勉強の中から再発見・再認識して、PRするためにあると思っています。所有者は、維持してゆくことの辛さがよくわかっているでしょうから、解体する建物の反対運動団体でないことも承知しています。

推測ですが、川島先生は、保存交渉を通じて、保守・革新の両者にやられてしまい、大切と思っていた旭川の建物(兵器庫)を失った経験があるのでしょうか。ただ、保守にしる革新にしる、建物の保存に対しては、両者とも大切なパートナー(彫刻美術館はよい例です)です。先生は、保革とは書かず「軍都コンプレックス」としています。軍都コンプレックスは、保守・革新の両者、自衛隊にも、市民全体もあると思っていたので、負の遺産と考えられている北鎮記念館の展示物を覆う建物は、あえて負の遺産と思われるで、解体された兵器庫のデザインを取り入れた。事前の段階から、散々兵器庫をマスコミに書かせたものの、誰も文句は言えなかったし、今更誰かが文句を言っても遅いわけで、コンプレックスはただの思い込みであることを証明したんでしょうね。(笑)
勿論、旧北鎮記念館は、自衛隊の歴史としては大事ですし、解体するのは惜しいはずですが、兵器庫というハードルを設けることで敬意を表しているとも言えます。

momongaさんの「旭川」も、保革や政治ではなく「軍都コンプレックス」ではないですか？

Re: 川島洋一先生 投稿者: momonga ☒ 投稿日: 2018年 7月18日(水)22時06分6秒

[返信・引用](#)

マニアックさんへ

ありゃ、川島先生とはかなり近しい仲だったんですね。
川島先生とのやりとり、ものすごくよく分かります。(^^)
私は先生が亡くなる前の僅か2~3年間のお付き合いでしたが、マニアックさんは随分古いお付き合いだったようですね。
もしかして保存の会のメンバーですか？

> 記念館の歴史は、推論を入れるにせよ保守・革新のような安っぽい話を書くべきではないでしょうね。

私の持論として「歴史にプロパガンダは無用」というのがあります。
そもそも「論・旭川」のサイトを開いたのも、旭川の歴史にはモザイクがかけられている、といった事が理由です。
本当は保守とか革新とか右とか左といった言葉自体使いたくはないのですが、残念ながらこういった政治的思想で旭川の歴史がこれまで正しく語られて来なかった部分があるのも事実です。
北鎮記念館の過去もひとつの歴史であり、はっきりすべきところははっきりしたほうが良いと思ってます。

川島洋一先生 投稿者: マニアック 投稿日: 2018年 7月15日(日)22時49分59秒

[返信・引用](#)

> [No.1472\[元記事へ\]](#)

momongaさんへ

momongaさんの記述をみまして、現在の北鎮記念館の外観デザインに込めた川島先生のお気持ち・メッセージがわかりました。なるほど、ありがとうございます。
冗談好きで毒舌な先生でしたが、極めて真面目でシャイな人情派。敬虔なクリスチャンで、教会建築が専門。旭川がほんとに好きで、旧軍施設も徹底して調べる。

記念館の歴史は、推論を入れるにせよ保守・革新のような安っぽい話を書くべきではないでしょうね。

あえて確信犯で自衛隊の北鎮記念館のデザインを旧陸軍の兵器庫にした意図は？。
古いほうの記念館だって結構かわいいデザインじゃないですか。旧軍施設を選ぶに

せよ数ある中でもよりによって兵器庫ですよ。防衛施設局はずいぶん肝を冷やされたでしょうに先生も随分いじわるですね。と質問したところ、大笑いされ、はぐらかされましたがね。

Re: 旭川の洪水と曙遊郭 投稿者: [momonga](#) 投稿日: 2018年 7月12日(木)21時11分20秒

[返信・引用](#)

> [No. 1470\[元記事へ\]](#)

マニアックさん、はじめまして。

旧北鎮記念館は、私も「馬屋」と称してますが、実際には一度隊舎として再利用されたものを遠軽駐屯地から持ってきたみたいですね。
戦前の厩舎を、人間が使う隊舎として再利用したというのも、それはそれで今となってはすごい話ですよ。

この頃の時代、自衛隊というのは今と比べても非常に肩身の狭い存在で、それに加え、旭川においては革新（社会党）市長が誕生し、一時は旭川駐屯地移転計画まで飛び出したくらいです。
駐屯地の周辺には旧師団司令部はじめ旧軍時代の施設がまだ残っていましたが、市の管理となっており、北鎮記念館としては使わせてもらえなかったそうです。
こういった社会背景を指して「馬屋に押し込められてきた・・・」という表現になっています。
こんな不憫な時代を過ごしてきたせいか、自衛隊には節約精神が根付いているのでしょうね。

Re: 旭川の洪水と曙遊郭 投稿者: [momonga](#) 投稿日: 2018年 7月12日(木)20時55分17秒

[返信・引用](#)

> [No. 1469\[元記事へ\]](#)

さとうさんへ

たいへんありがとうございます。
旭橋の軍人勅諭については、その色が当掲示板でも話題になりました。
吉田初三郎が描いた鳥瞰図では赤（えんじ）で描かれているにも関わらず、証言では緑だったり、180度違うんですね。
はっきり色を覚えている方がほとんど見つからなくて、
結局出した結論は、青銅製がために初期はえんじ色、だんだんくすんだ黒っぽい色となり、最後は錆びて緑青が浮く、というものでした。

ですから、
> 「旭橋には銅が錆びて汚い緑色になったプレートが掛っていた」
といった具体的な状況はぴったり合致しており、推測を補完してくれる証言として貴重です。
戦前の記憶を語れる方がどんどん減りつつあります。
若いうちに聞いといてくださって感謝です。

Re: 旭川の洪水と曙遊郭 投稿者: [マニアック](#) 投稿日: 2018年 7月11日(水)23時37分2秒

[返信・引用](#)

> [No. 1465\[元記事へ\]](#)

はじめまして
やきそばさん

貼り付けの画像は、きっと、北鎮記念館で行われた「旭川の歴史展」のプレゼンボードなのかなあと拝見いたしました。過去、記念館のWEBにもアップされており、当時のままの資料ではないですが、現在も「特設ページ」に残っていますね。goドメインへの掲載です。どなたの作品だったかは忘れましたが、手作り感満載？の資料。でも1ページづつわかりやすく丁寧に作られていますね。地道に掲載し続ける自衛隊さんも粋です。やはり先日、北鎮記念館で、春光地区の旧軍官舎の残存状況を徹底的に調べ上げた教育大の学生さん？の資料が展示されていました。なかなかの力作でした。さすがに来訪者限定。webには載せないでしょうね。ということで訪問ついでに写メをしちゃいました。

momongaさん

旧北鎮記念館は、遥か100km離れた遠軽駐屯地から移築した元厩舎を改造した隊舎ですが、遠軽駐屯地の親睦団体の名称は「馬小屋（灯）会」。同地の駐屯地史料館

は、今も馬小屋時代からのものを大切に活用し、隊の誇りのひとつになっていますね。また、真駒内駐屯地に参りますと、サイロ隊舎というのもありまして、これも大事に駐屯地史料館として利用されています。屈強さに併せ、モノを大切にします。主婦も真っ青な節約を徹底するというのは、古くからの伝統だそうです。やむをえず・押し込められてきたというのは、大切な遺品を寄贈してくださった方に対しての師団長さんのお言葉としては至極まっとうなのでしょうけど、そればかりが強調されると、何か歴史の流れの説明がつきにくい部分が出てくるようにもみえました。今回の豪雨被災地派遣はETC割引を使うのでしょうかね。災害のたびに出勤の自衛隊さん。貢献も大事で人知れず節約も大事。記念館の隊員さんはこっそり教えてくれるかもしれません。

Re: 旭川の洪水と曙遊郭 投稿者: さとう 投稿日: 2018年 7月11日(水)21時26分37秒

[返信・引用](#)

> [No.1468\[元記事へ\]](#)

momongaさんへ

> この情報は、年代的にどういった方からの情報なのでしょう？
40年近く昔の話で曖昧なのですが、情報ソースはおそらく祖母、或いは小学校の担任だと思います。
祖母は明治40年生まれ、担任は昭和10年頃の生まれだったと記憶しています。

他におぼろげに記憶しているのは
・10円玉の錆よりも黒かった
・戦争に関係するものだったので、戦争が終わったら外された程度です。

何時の時点で錆び色だったのかはわかりませんが、あまり綺麗ではない物として聞きました。

あまりお役に立てる情報は持っていないくて・・・すいません。

Re: 旭川の洪水と曙遊郭 投稿者: momonga 投稿日: 2018年 7月10日(火)21時22分35秒

[返信・引用](#)

さとうさん、はじめまして。
書込みありがとうございます。

そうか、やきそばさんの1枚目の写真は「写真が語る旭川」にも載ってたんですね。
私もこの写真集は持ってますのでさっそく確認しましたが、確かに載ってました。ただこの写真集が発刊されたのはつい3年ほど前の事ですから、やきそばさんが昔入手したというソースは別物でしょうね。
でも情報ありがとうございます。

> 子供の頃「旭橋には銅が錆びて汚い緑色になったプレートが掛っていた」と聞いた気がします。

この情報は、年代的にどういった方からの情報なのでしょう？
たいへん失礼ながら、さとうさんの年齢も気になりますが、もしこれが軍人勅諭を指しているとするれば、戦前の旭橋の状況を明確に覚えている方だとお見受けします。
当掲示板のログをご覧になったのであればお分かりかと思いますが、軍人勅諭に関しては明確な証言が得られず、結局判らず仕舞いの事が多いのです。

もし他に情報をお持ちであれば是非お知らせください。m(__)m

Re: 旭川の洪水と曙遊郭 投稿者: さとう 投稿日: 2018年 7月10日(火)17時35分32秒

[返信・引用](#)

はじめまして。
旭川市内の昭和初期の写真、地図を探しているうちに、こちらに辿り着きました。

やきそばさんへ

> それがどの資料だったのか思い出すことが出来ません。（※画像に書き込まれているキャプションも私が付けたものではなくPDFに記載されていたものです）

「写真が語る旭川(北海道新聞社)」97Pに掲載されている写真が、一枚目の写真と同じモノの様な気がします。
元ネタは「上川支庁管内大洪水写真帳」となっていました。
御参考になれば幸いです。

今は旭川を離れています、小学生の頃は旭橋、常磐公園界隈は遊び場でした。ロッキングカラムの件、温度変化で動作しているのを観察しに行った記憶があります。
懐かしいですね。
子供の頃「旭橋には銅が錆びて汚い緑色になったプレートが掛っていた」と聞いた気がします。こちらで話題に上っていた、軍人勅諭の事だったんでしょうかね。

Re: 旭川の洪水と曙遊郭 投稿者: momonga 投稿日: 2018年 7月 4日(水)23時29分5秒

[返信・引用](#) [編集済](#)

やきそばさんこんばんは！
さて、ご無沙汰という事ですが、以前は何ていうハンドルネームだったでしょうね？ ^^;

今回の旭川の大雨、観測史上最大の雨量という事でしたが、大規模水害と言うには報道が少々大袈裟なような気がします。確かに川はかなり危険な状態でしたが、犠牲者が出たわけではなく、実際に冠水したのは一部地域だけでした。
永山新川や愛宕放水路など、市内を流れる河川の治水は各段に進化しており、昔のように市街地のあちこちが水没したということはありません。

それはともかく、たいへん珍しい写真をありがとうございます。
この写真は、私も見た事があるようなないような・・・たぶん初めてだと思えます。
曙遊郭は、第七師団建設時に大量に入り込んだ工夫相手が目的の私娼が始まりと言われ、その後、公娼として認められた遊郭街です。
中島遊郭よりも古い歴史を持った遊郭街という事ですね。
現在もここの道路はやや広めです。
この写真は、旭川区となっていますから、大正時代のものようですね。

旭川の洪水と曙遊郭 投稿者: やきそば 投稿日: 2018年 7月 3日(火)21時25分33秒

[返信・引用](#)

大変ご無沙汰しております
10年ぐらいに書き込みをさせて頂いたと記憶しております。
当時は旭川の郷土史に物凄く興味を持っていて、旭川に帰省する度に市立図書館の郷土資料室に入り浸る日々を送っておりました
そんな熱中も一段落し、今は都内で平凡に暮らしているのですが、先程、某匿名掲示板を覗いていたら旭川が大規模な水害に見舞われて大変だということを知り驚きました。

水害といえば遥か昔、中島遊郭と曙遊郭の資料を片っ端から検索していた時、偶然、曙遊郭が洪水に見舞われた時の画像を拾ったのを思い出しました。
この画像、どなたかが郷土資料としてまとめたものをPDF化してアップロードしていたものを、該当部分だけキャプチャーしたということだけ記憶しているのですが、
それがどの資料だったのか思い出すことが出来ません。（※画像に書き込まれているキャプションも私が付けたものではなくPDFに記載されていたものです）

曙遊郭は中島遊郭と比較しても資料が極めて少なく、その全貌が分かる画像は全くといって見つけることが出来なかったのですが、
あの狭いエリアにこのような街が形成されていたのか？と思うと感慨に浸ったものでございます。



「高畑利宜のイシカリ探検とアイヌ美術の世界」 投稿者: [momonga](#) 投稿日: 2018年6月17日(日)19時15分57秒 [返信](#) [引用](#) [編集済](#)


滝川美術自然史館で昨日から開催されている企画展へ行って来ました。

正直申し上げて、旭川でもたまに開催される企画展なんかよりずっと充実してましたね。
高畑利宜にテーマを絞っているということもあるんでしょうけど、さすが地元という感じがしました。
会場は結構なスペースがあって、2/3が高畑関連、1/3がアイヌ美術関連と古地図等でした。

高畑利宜は、上川道路の5つの駅逓開設以降、結果的に中間の滝川に住み着いて町の開基功労者となりましたが、元々は岩村通俊の意に沿って自ら未開の上川の調査に赴き、上川道路の建設に従事し、農作試験場（後の駅逓第一美英舎）を建て、旭川の礎づくりにも多大な貢献をした人です。
ゆくゆくは上川に居を構える意図だったとも言われています。
旭川において、この人の名がほとんど語られず知られていないというのは市史上の欠陥ではないでしょうか。

会場を出る時のアンケートには「旭川でも開いてほしい」と書いておきました。それにしても、滝川にはこんなに立派な施設があるんですね。



ちなみに・・・ 投稿者: [momonga](#)  投稿日: 2018年 6月 3日(日)20時33分37秒

[返信・引用](#) [編集済](#)

今日の午後3時過ぎ、天気予報にはまったく無かった雨が降りましたね。
明日から護国神社祭、音楽行進との狭間に涙雨、という事でしょうか・・・

行ってまいりました 投稿者: [momonga](#)  投稿日: 2018年 6月 3日(日)20時16分10秒

[返信・引用](#)

音楽行進、最高の天気にも恵まれました！
もう何も言うことはございません。行かれなかった方はちょっとだけ雰囲気味わってください。



おなじみ、道警音楽隊カラーガード隊のドラムメジャーさんです。相変わらずカッコイイ！



王子製紙音楽隊のパークッションさん。この方も音楽行進ではすっかりおなじみですね。



高校生チームは実力・パフォーマンス共に見ていてとにかく楽しいです。



各チームのドラムメジャーさんは、旭川吹奏族のこのパフォーマンスを少し見習っては？



アフターコンサートでのスクラッチダーティープラスバンドの素晴らしい演奏！
行進時より少ない、たったこんだけのメンバーにも関わらず十分な迫力でした。
旭川駅をバックにした買物公園でのプレイが実に良くマッチングしてました。



アイドル登場！？
凌雲高と東栄高が統合した新生永嶺高校はますます元気いっぱいでした。
こんなんが登場すると、もうアフターコンサートから目が離せませんね。^^;

音楽大行進 投稿者: [momonga](#) 投稿日: 2018年 5月30日(水)20時22分44秒

[返信・引用](#)

毎年恒例の話題の時期がやってまいりました。(^^)v

今週6月2日の土曜日、北海道音楽大行進が行われます。
今年には護国神社祭本祭日より3日早い開催ですね。
一部の天気予報では曇り&傘マークも表示してますが、殆どの予報では曇りのよう
です。 ← かなり疑心暗鬼
もしかしたらパラつくかもしれませんが、少なくとも季節外れの低温はなさそうで
す。

昨年は雨こそ降らなかったものの、気温が低くて見てる間に体が冷え切りました
し、一昨年のご存知の通り、史上初の悪天候（雨+低温+雷）による前日中止決定で
した。
今年は是非とも良いコンディションの中で演奏を楽しみたいものです。

それはそうと、この音楽行進の日程を未だに6月第一土曜日固定と思われている方
が多いようです。
私も変わったのを知らずHPに掲載し続け、5年前に実行委員会の方からメールで指

摘された事がありますので偉そうな事は言えませんが、かなり以前からその年ごとに日程調整するように変わっているようです。殆どの場合は第一土曜日となりますが、確かに第二土曜日に開催した事もありますよね。

いつの間に？という感が無きにしても非ずですが、この音楽行進は、PRもしなければ一般向け広報があまりにも貧弱過ぎだと思いません。市民であれば護国神社祭が近づけば連想して音楽行進の事も思い起こしますが、それは市民に限った話です。北海道を代表するに値する規模と伝統あるイベントなのですから、もっと対外的にアピールすべきではないでしょうか。せっかく伝統を曲げてまで土曜日開催にしたのは、けっして参加者のためだけではないはずですよ。

Re: 再び観魚橋 投稿者: momonga 投稿日: 2018年 5月20日(日)11時11分21秒

[返信・引用](#)

かんじさんへ

観魚橋の詳しいレポートありがとうございます。雪が無くなり、春の陽気ともなるとやはりブラタモリよろしくムズムズしてきますよね。(^^) 私は先週埼玉へ行ったついでに、以前ブラタモリでやってた伊香保温泉の石段が見たくて群馬まで足を延ばして来ましたよ。

私もこの一番古い橋をマジマジと見た事は無いのですが、レンガの橋脚が残ってるとは思いませんでした。春志内トンネルができる前までは、国道12号線は真ん中の橋を渡っており、まだ高速も通ってない時代なのでよく通りました。その頃は「古い橋がまだ残ってるんだなあ」などと漠然と横目で見ていただけでしたが・・・その後今の橋ができたわけですが、新旧3代の橋が残ってるというのは非常にレアですよ。

さすがに上川道路の初期の頃は土橋や木橋だったでしょうが、旭川でレンガの生産が本格化したのは鉄道開通や師団建設のあった明治30年代ですから、それ以降に造られた橋脚かな。おそらく、度重なる石狩川の増水が関係してるでしょうね。かなり低い位置に架かってますから木橋だと橋脚ごと簡単に流されてしまう。すぐ復旧できるように橋脚だけでも残るようにレンガで組んだとか？橋脚の”穴”は水没した際の水の抵抗を減らすためとか？かんじさんがおっしゃるように、橋桁までレンガのアーチ橋だった可能性もありますよね。

現物残ってるだけに興味をそそられる橋です。

PS: そういえば旧神居古潭駅のところにある線路跡に架かる橋の橋台もレンガでした。



再び観魚橋 投稿者: [かんじ](#) 投稿日: 2018年 5月16日(水)10時38分13秒

[返信](#)・[引用](#) [編集](#)済

雪が消えて新緑が出始めた今日この頃、景色としては決して良い時期ではありませんが、この時期だけの良い点があります。

それは木々に葉が生い茂ると見えなくなってしまう景色が葉に邪魔されることなく見えることです。

昨年、私はひょっとして明治期の遺構ではないかという観魚橋を探査してきましたが、その時には入ってゆくのも大変だったし、橋も木々に隠され十分に見ることができませんでした。

そこで先日、草木が生える前のこの時期に再び観魚橋の探索に行ってきました。現在の国道12号線、自転車道になった旧国道、そしてその下に並ぶ上川道路？という3つ道路にかかる観魚橋は永田方正の北海道蝦夷語地名解にも登場する歴史的な橋であり、この橋を調査する事はそのルーツに繋がる事にもなります。

今回、草木が無かったおかげで3つの橋が並ぶ勇壮な姿を写真に収めることができた事、一番古い橋の上に立つことができた事、そして河原に降りてレンガの橋脚を直に見ることができた事が収穫でした。

3代に渡る観魚橋という言い方をしましたが、実はレンガ橋脚の前前観魚橋はかなり大幅な改修を受けています。

それはレンガ橋脚を囲むようにコンクリートで補強され、橋げたもコンクリート製のしっか

りした桁がかかっており、これは明らかにレンガ橋脚とは時代を異にするものです。

つまりここには4代に渡る観魚橋の痕跡がある事になります。

レンガ橋脚はイギリス積という積み方がされていますが、これが明治20年以降に見られる積み方で、強度が強く橋脚のようなものはこの積み方をされたようです。旭川まで鉄道が通ったのが明治31年であり、この時に鉄道関係にはトンネルや鉄橋の建設に大量のレンガが使われました。

レンガ積の橋脚はこの頃のものと思惟は出来ませんが年代特定は難しいですね。

レンガ橋脚に対して両側の橋台部分はコンクリート製であることも、この橋が改修されている事を物語っています。

コンクリートでの改修がいつ行われたのかもわからないのですが、それほど大きくないにも関わらず橋脚を残して橋を作り直したことになります。

そしてこの橋脚には特徴がありますね。

橋脚の下中央部にはアーチ型の穴があいています。

これは京都の南禅寺にある琵琶湖疏水の有名なアーチ橋レンガ橋脚に見られますが、力学的に間を抜いても影響が少ないので材料を減らすために穴をあけたのか、装飾的な意味で開けたのかわかりません。

ただ、アーチ部の頂上に要石があるのですが、観魚橋の要石は比較的大きくしっかりと装飾の意味を持たせています。

また、橋脚上部には凸凸とした出っ張った石が並んでいますが、これが珍しいです。

これは有名なレンガアーチ橋である碓井川橋梁に見られる突起であり、この突起を利用してさらに上部のアーチ型レンガを積み上げたとあります。

観魚橋の突起がこの為のものならば、ひょっとしたらコンクリート改修前には観魚橋はアーチ橋だった可能性さえあります。いずれにしても、下部のアーチ構造と上部の突起ぶが装飾的な味も出しており、単にレンガを積んだというだけではありません。この橋脚をわざわざ残した理由の一つかも知れません。

この橋が残った理由は、単に取壊し費用がかかるからかもしれませんが、私の様なものを見るとそこに歴史を感じ、思いをはせることができる貴重な遺構に見えます。

ひょっとしたら壊すのは惜しいと思った人達の想いがこの橋を存続させているのかも知れません。

旧国道が残ったのは自転車道としての再利用が目的でしょうが、偶然が重なって3つの観魚橋がいまここにあります。

この風景には100年を超える歴史が重なり合っています。

整備すれば立派な観光資源にもなりかねない重要さをそこに感じる事が出来ます。

ここまで残ったら逆に今後は積極的に残してほしいですね。



分28秒

まろんさんへ
そうですか、元従業員さんでしたか。

宮川本店は「旭川の歴史的建物の保存を考える会」の建築賞を受賞している建物です。
旭川において、貴重な建築物の一つであることは間違いありません。
ただ、おっしゃる通り生かすも殺すも経営者の一存、といたしますか、やっぱり経営的経済的事情なんだと思います。
建物を残したいのは山々だけど・・・というのが実態なのでは？
傍から「残すべき！」と唱えるのは簡単ですが、誰もお金を出してくれるわけではありません。

昨年同じく建築賞を受賞された上川倉庫の井内治弥さんがその事を指して、「残すためには建物を使い続けるしかない」旨のことをおっしゃってました。その言葉と実践にはすごい重みがありましたね。
歴史ある建物のオーナーに共通した問題ではないかと思います。

あ、ちなみに「旭川の歴史的建物の保存を考える会」は、あくまで「考える会」であって「唱える会」ではありません。

仏壇の宮川、家具の宮川の件 投稿者:まろん 投稿日:2018年 5月 1日(火)14時57分13秒

[返信・引用](#)

momongaさんへ

>実は私、元従業員なんです。
内部事情を知ってるだけに、旭川市民の皆様がああ建物がなくなるという、惜しい気持ちを多くのお客さんから言われて、凄く辛かったです。閉店させるのは、あくまでも経営者の一存です。
私たちにはなすすべもなく...でした。
外観の建物は立派に見えますが、中はかなりの老朽化でしたので、中の改装さえしてくれたら老若男女問わずに訪れるお客さんも多かったかな~と思っていました。
どんどん昔からの建物がなくなり、旭川は、とても薄っぺらい街になりつつありますね。
地味な街だけど、私は生まれも育ちも旭川で大好きな街だからこのままで、大丈夫なのかこの先が不安ですね。
人口も凄いスピードで減っているし、近い将来北海道第2の都市から降格してしまう気がしてなりません。
> 余計な話をすみません。失礼しました(*_*)
>
>
>

ちよつと一服 投稿者:momonga☑ 投稿日:2018年 4月26日(木)21時08分15秒

[返信・引用](#)

ここのところ続いている陽気で一気に花が開いたようです。
22日に撮った画像ですので、今がピークですね。



Re: またまた北海道経済誌に掲載！ 投稿者: [かんじ](#) 投稿日: 2018年 4月25日(水)16時18分
17秒

[返信・引用](#)

momongaさんへ

ご紹介ありがとうございます。
皆さんも是非とも北海道経済を購入、または病院の待合室、銀行のロビーでご覧になってください(笑)
ちなみに原稿料は頂いておりません。掲載誌一冊だけ。
momongaさんがおっしゃるように決して新説ではありません。
これまでのmomongaさんの説の一部に、新たに見つかった永田方正の書簡の内容を加え整理し考察しなおしたものです。

特に「岡部方幾」という人間の存在を世間に知らしめる事により、地名の問題に関心を持ってほしかったというところですね。

内容が内容だけに、私への反応も微妙でして5ページもの内容を記事にしたという事で「凄い！」という単純な反応がおおいのですが、中身は読みにくいか、なかなか理解できないとか、そもそも旭川の地名の発祥が様々あるとされている事さえ知らない人が多いわけですから。

私もmomongaさんも、旭川の地名由来は沢山なんてない、もともと2つしかないのですが、「新説」ではさらに説が増えてしまった事になります。

「これは失敗だったかな」

「正説」だったでしょうか(^_^;

但し北海道経済のようなメディアはそれなりに影響力はあるものの、正式な学術的な意味づけは持っていません。

本来であれば、日本歴史学会の会員となり学会誌に投稿する事で歴史学者の検証を受けることにより正式に認められてゆくものなのです。

そう言った権威のある団体の発する訳であれば、旭川市などの見解も変わるんでしようけど。

私の様な素人郷土史家が経済誌に投稿した記事で、旭川市の解釈が変わるとは思えないですね。

逆に公的に歴史を扱う内部の方が（図書館の司書さんや博物館の学芸員さん等）が、自ら不要な説を削除し、新しい解釈を行っていただけるとありがたいのですが、、、。

従来解釈を踏襲するだけでは、いつまでたってもおかしな解釈を続けているようで、滑稽ですらあります。

またまた北海道経済誌に掲載！ 投稿者:momonga✉ 投稿日:2018年4月22日(日)20時10分
33秒

[返信・引用](#)

今月の北海道経済5月号をご覧になった方はおられるでしょうか。

【新説「旭川の名付け親」考】と題して旭川地名由来に関する記事がなんと5ページにも渡って掲載されています。

この調査をされたのは「旭川の歴史的建物の保存を考える会」の竹田完二さんとおっしゃる方です。

ん？ 当掲示板の常連にも確か「かんじ」さんがおられますが、、、（笑）

まあ、ネタばらしをしますと、わたくしmomongaも一枚かんでおります。

かんじさんとは、昨年8~9月に行なったWikipediaの旭川・地名由来の書き換え以降、岡部方幾に関して共に調べておりました。

「新説」と紹介されていますが、そうではなく、現状認識の誤りを新たな補足資料をもって指摘したものです。

これまで知られていた資料だけでも従来アイヌ語由来説の矛盾は明らかなのですが、誰もそれを指摘しようとも認めようともしません。

当サイトのコンテンツに、「日の出づる川」のウソ…旭川の名の謎、がありますが、

その中の「日の出」は実はパクリ？ が今回指摘した部分に相当します。

記事中では推論を極力排して事実の時系列的考察に特化し、まずは既成事実化している永田方正意識説の大矛盾を突いています。

「旭川の地名由来はアイヌ語のチュプペツの意識」と唱える方々は、その殆どが永田方正の意識である事を前提としているからです。

また、旭川市の見解も、お役所らしくなかなかここから一歩も出ようとしません。

今回の記事では岡部方幾という異色の軍人にスポットを当て、かんじさんが” 気を入れて” まとめてくださった内容が詳しく紹介されています。

長くなりますのでここではこれ以上紹介できませんが、詳しくは是非とも北海道経済をご覧ください。

Re: 仏壇の宮川、家具の宮川 投稿者: [momonga](#) 投稿日: 2018年 4月19日(木)21時26分9秒

[返信・引用](#)

まるんさんへ

情報書き込みありがとう。(^-^)

仏壇の宮川、家具の宮川 投稿者: [まるん](#) 投稿日: 2018年 4月18日(水)22時45分55秒

[返信・引用](#)

どちらも閉店ですよ。
家具屋さんの閉店は5月の予定。

Re: 宮川仏壇店 投稿者: [momonga](#) 投稿日: 2018年 4月 2日(月)20時47分49秒

[返信・引用](#)

おゆきさん、書込みありがとうございます。
お久しぶりという事は、旭橋の軍人勅諭旭日章の話題の時に貴重な資料をUPしてくださったおゆきさんですね？
どうもお久しぶりです。

老舗宮川本店の閉店、とても残念です。
私もあの建物だけは残してほしいと願っていますが、
先日の道新報道によれば、どうやら建物は取り壊すみたいです。
どんなに貴重な建物でも、壊すも維持するも結局は所有者の意思次第・・・
誰もお金を出してくれるわけではないので致し方ないところです。
旧岡田邸のように、建物に価値を見出す新たな所有者が現れる事を祈るしかなさそうです。

宮川仏壇店 投稿者: [おゆき](#) 投稿日: 2018年 4月 2日(月)03時18分48秒

[返信・引用](#)

お久しぶりです。
大正6年 創業, 今年で100年を迎えた老舗
宮川仏壇店が廃業しましたね。
家具店は継続される様なのですが
あの建物は、これからも残して戴きたい・・・ですね。

Re: 「旭川」再始動 投稿者: [momonga](#) 投稿日: 2018年 3月 3日(土)22時08分55秒

[返信・引用](#)

かんじさんへ

もし無視されるようであれば、それは要するに反論できる材料を持ち合わせていないという事だと思います。
と言いますか、元々自分でそこまで詳しく調べている方なのでしょうか？

高橋基さんですら論文中で岡部方幾に関しては良く分かっていないとしていますし、永田方正の命名と言うのもあくまで『だろ』に過ぎません。
それも自ら提示している資料にも関わらず時系列を全く無視した推論です。

判明している資料や出来事を時系列に並べるだけで、少なくとも永田方正のチュブペツ意識説は覆ります。
つまり、かんじさんが示した通りで、永田方正の旭川命名というのはとっくに根拠を失っているのです。
この点、新旭川市史でも件の新聞記事を掲載していながら何故に疑問を呈しなかったのか不思議でなりません。

もし『大日本帝国等の意味に縁あり』という一文が気に入らない、という事で旧来からのアイヌ語意識のみに固執しているとすれば、
それこそ私には何かのプロパガンダと思えてなりません。

事実を語る資格はないと思いますが、編集長がそうではない事を祈ります。

Re: 「旭川」再始動 投稿者: [かんじ](#) 投稿日: 2018年 2月26日(月)15時16分40秒

[返信・引用](#)

> [No. 1445\[元記事へ\]](#)

momongaさんへ

私は工藤編集長とは何度かお会いして、私の主張を紙面に反映させて頂いたことも2度ほどあります。

でも、旭川の地名はアイヌ語起源説を唱える完全なる高橋基さんよりの方です。どうりでというか、リアクションは現在のところありません。そっかあ本丸に直接乗り込んでしまったのか、。。。。。

> チュブペツ意識が永田方正によるものではないとなると根本的にその論理が崩れます。

そうなんですか？

それは困るでしょうね。

私にも返事をしにくい事でしょう。

> 私が何よりも重要視しているのは岡部方幾の次の言葉です。

>

> 『旧称の意義を存し且つ大日本帝国等の意味に縁あり』

これはあえて避けてました。

これを避けても旭川を岡部方幾が意識した事を認めさせることが第一だからです。余計な拒否反応は正確な歴史には不要ですから。

同じく永山武四郎の存在も無視はできないのですが証拠がない以上憶測では限界があります。

> とりあえず、あさひかわ新聞の件は反応が楽しみです。

これは無視されるかもしれないなあ、。。。

Re: 「旭川」再始動 投稿者: [momonga](#) 投稿日: 2018年 2月25日(日)15時16分1秒

[返信・引用](#)

かんじさん、動き出しましたか。私はまだです。^^;

私自身は普段「あさひかわ新聞」は読んでませんし、もちろん編集者とも面識はありませんので、

この新聞が郷土史・旭川地名由来に関しどういった見解を持つてるのかは分かりません。

ただ、高橋基さんのような論調を一方的に扱っているとすれば、それは何が何でもアイヌ語信仰的な考え方に染まっていると思われま。

高橋基さんについては、以前にもこの掲示板で触れた事があるかもしれませんが、滝川と同様、旭川についても永田方正がチュブペツの意識をして名付けた、としている方です。

チュブペツ意識が永田方正によるものではないとなると根本的にその論理が崩れます。

不思議な事に、岡部方幾や北海道毎日新聞・学友会誌の記事の存在を知っていながら、それをあっさり無視しています。

非常に綿密な調査をしていながら、時系列的な事実はパスしている・・・

重箱の隅を突き過ぎて大局的な見方ができないのか、意図的にそうしているのかは分かりません。

それはともかく、岡部（山室）方幾の経歴・人物像、特に永山武四郎との関係について、これ以上の資料が見つからないのが残念ですよね。

私も追ってみました、かんじさんと似たり寄ったりでした。

そうは言っても、やはり北海道毎日新聞の記事については新旭川市史にも載ってるくらいですから決定的事実ですし、それを補完する形の学友会誌の投稿も強力です。

私は何よりも重要視しているのは岡部方幾の次の言葉です。

『旧称の意義を存し且つ大日本帝国等の意味に縁あり』

語源をチュブペツとし、それを意識したのは岡部方幾に間違いないでしょうし、永田方正はそれを追認したと思われる。ただし、岡部方幾は単にアイヌ語の訳というだけではなく『大日本帝国等の意味に縁あり』としているのです。アイヌ語意訳と併せた2つの意が命名者の意図であり、旭川の名の由来である事は疑いようがありません。問題は「旭川」という漢字命名までが岡部方幾によるものかどうか、という点です。岡部方幾は当初「日出川」と訳していたのが、新聞発表時点で「旭川」と変えています。私はここに必ず永山武四郎が絡んでいると見ていますが、それを裏付ける資料が見つからないのが残念です。

とりあえず、あさひかわ新聞の件は反応が楽しみです。

「旭川」再始動 投稿者: [かんじ](#) 投稿日: 2018年 2月22日(木)09時47分40秒

[返信・引用](#)

momongaさん、私は再始動しました。旭川の名前の起源についてメディアを引き込むべく、かなりの強敵と思われる「あさひかわ新聞の工藤編集長」に私の解説メールを送りました。

-----以下 直メール-----
工藤編集長様

〇〇〇〇のかんじです。いつもお世話になっております。今日は「旭川」という名前の起源について私の思うところを説明させてください。編集長は「岡部方幾」という人物をご存知ですよ？明治23年旭川開村当時、屯田兵司令部付曹長という立場にありながら、博学のアイヌ言語学者であり、アイヌ民族研究家であり、学友会という当時の北大を中心とした自由民権運動に参加して機関誌にアイヌ民族研究を投稿し、博物学会の司会を務め、後に道庁の職員となった異色の人物です。

なぜこの人物の話をするかと言いますと、この人物こそが忠別 (Chu-ppet) を旭川と訳した人物だからです。そう断言する資料がありますので説明させてください。一般に旭川の語源を語る時、当時のアイヌ言語学の大家「永田方正」の訳として紹介されることが多いですが、それは誤りで岡部方幾は永田方正に先んじて旭川の訳を行っている資料があります。時系列が重要ですので日付を追ってご説明します。

【明治22年5月24日】
山室方幾が陸軍工兵曹長から屯田兵司令部陸地測量部に転科（資料有）

【明治23年1月】
自由民権結社北海道学友会機関紙「北海道（第九号）」（資料有）
山室方幾が北海道地名考という投稿で9つの北海道の地名をアイヌ語から意識しています。
札幌、忠別、空知太、幌内太、石狩、琴似、手稲、夕張、幌向
このなかで【忠別】の意識として「チュブは日或いは東、又は日出といふ意にしてペトは川の義なり、故に日出川或いは東川と訳するを適當とす」としています。
【空知太】の項では、永田方正先生は空知太を意識して瀧川村となせり、とも書いています。
つまりこの時点で山室方幾は永田方正が各地のアイヌ語地名を調査している事も知りながら各地の地名を意識して雑誌に投稿しているわけです。

【明治23年2月8日】
岡部方幾は北海道毎日新聞を訪れ上川離宮にふさわしい名前として旭川の名前を上げた記事があります。（資料有）

上川離宮の御名称 - 昨8日岡部（山室改）方幾氏が弊社に来られ
 「上川離宮の御名称の事に就いては夫々の御詮議も在らせらるべきは勿論のことなれとも
 九重の深き雲の上の事なれば素より窺い奉るべき様なきことなるが
 然るに彼の上川郡の忠別はアイヌ人の発音に従ふ時はチュプペト
 (Chuppet) にして
 「チュプ」は太陽、日、東等の意、又た「ペト」は川の義なり
 故に離宮の御名称は旭川或いは東川等の文字を御用い遊ばさるゝに至らば
 旧称の意義を存し且つ大日本帝国等の意味に縁あり旁々適当ならんか」
 との談話ありし

【明治23年3月】北海道学友会機関紙「北海道（第十号）」（資料有）
 この号でも岡部（山室）方幾は茨戸、幌別、古丹別、等を意識していますが、重要なのはこの号に「永田方正の書簡」という記事が掲載されています。
 「前号に掲載せし岡部（山室）方幾氏の北海道地名考に就て有名なる蝦夷語学者永田先生は左の如き書簡を岡部に送られたり」
 「拝啓陳は本年1月発刊北海道雑誌に北海道地名考と題する1編を拝読いたし候、右当道人民のため大利益ある御思考にて感服之至御座候中に就きて小生聞及たるに少異御座候間御参考の一端とも可相成哉と存し左に記載入尊覧候」
 私なりに訳しますと「北海道地名考という一編をみて感服したけど、ちょっとだけ違うと思うところもあるので参考にしてほしい」と読みました。
 そして違うと指摘しているのが、琴似村、手稲村、石狩の3つです。
 先にあげた忠別を含む9個の地名の内3つに若干の異を唱え、忠別の意識を含む6つに関しては感服したと岡部方幾の意識を認めているわけです。

【明治23年3月】
 永田方正が上川地域の調査を終える。（資料有）
 「北海道蝦夷語地名解」調査終了

【明治23年9月20日】
 旭川開村
 開村公告を掲載した函館毎日新聞に村名由来という記事があります。（資料有）
 「旭川村は土人名チュプペツでチュプこれ日月ペツこれ川の事なり日月此川源の方より出て川口の方に没す故にチュプペツと名付しを今訳名をもちいて旭川村とす」

【明治24年3月30日】
 「北海道蝦夷語地名解」永田方正著 出版（資料有）
 この中で永田方正は忠別を岡部方幾と同じく chup pet と発音し、【東川】と意識しています。
 同時に日月の出でるところとも記していますが、旭川とは訳していません。
 「明治23年旭川村を置く」は前年の事実を記しただけです。

工藤さんも知っている事を長々と申し訳ありません。
 つまり、明治23年1月にはじまる一連の流れの中で、旭川と言い出したのは岡部方幾であり永田方正ではありません。
 山室方幾は明治23年1月発行の雑誌「北海道（第9号）」の中でチュプペツを明確に日出川と訳しています。
 岡部（山室）方幾は明治23年2月に上川離宮の名称として北海毎日新聞紙上でチュプペツを太陽、日、東、川と訳して旭川か東川がふさわしいと言いました。
 永田方正は明治23年3月発行の「北海道（10号）」の中で岡部方幾のチュプペツ（日出川、東川）を認めています。
 永田方正が明治24年に出版した「北海道蝦夷語地名解」では岡部方幾のチュプペツ chuppet の訳をそのまま用いています。
 以上の経緯から旭川の名付け者は「岡部方幾」であると断定したいと思っています。

岡部方幾がどのような人物だったのかずいぶん調べたのですが、詳細なデータまでは調べられませんでした。
 旭川市中央図書館、北海道立図書館、国立国会図書館、教育大学図書館、も調べましたが永山武四郎との関係や上川離宮の名称を発表する事になった詳細なところは解りません。

工藤編集長いかがでしょうか？

追記

後の議論としてチュプペツは誤訳であるとされましたが、確かに誤訳かも知れません。

しかし誤訳をしたのは「岡部方幾」であり、岡部方幾がアイヌ語をchup petと聞き日出川→旭川と意訳した人物である事は間違いなく、旭川という言葉の起源はここにあるのだと思います。
その最初の資料が「北海道(9)」の忠別チュプペツchup-pet→日出川、東川 です。

-----岡部方幾 年表-----

明治10年 伍長 山室方幾助
 明治12~13年 東京に居たと記述
 明治13年 谷干城が東部検閲史として函館に来た時に「召使」であったと記述
 明治14年12月28日 陸軍工兵軍正 山室方幾
 明治15年 東京 陸軍工兵軍曹 山室方幾
 明治15年1月1日から1月7日 参謀本部附 陸軍工兵軍曹山室方幾
 測量課に配属
 明治15年3月31日 長女が生まれる
 明治15年9月 出張中の棒給と宅料を、、、、 参謀本部長 大山巖

明治17年 東京 工兵曹長
 明治20年12月16日 [特2888] 帝王護法録(ていおうごほうろく) 水谷涼然 // 編
 明治19刊 (活版)
 上記本を陸軍書庫へ献納

明治21年5月 東京 陸軍工兵曹長
 明治22年5月 東京 陸軍工兵〇〇
 明治22年5月24日 陸軍工兵曹長から屯田兵陸地測量部へ転科
 屯田兵本部長 永山武四郎より陸軍大臣大山巖へ

明治23年1月 北海道学友会 北海道九号に投稿 山室方幾
 明治23年2月8日 北海道毎日新聞に「上川離宮の名前候補を語る」 この頃、永田
 方正より書簡が届く
 明治23年3月 北海道学友会 北海道十号に投稿 岡部方幾

明治26年2月発行 雑誌史海 にて永田方正により「友」と記述
 明治26年2月11日 札幌博物学会第二回公開演説会の司会を担当
 明治26年4月15日 第27回月例会にて「アイヌ勘定法」を講演
 明治26年7月31日 東京の谷干城宅を訪ねる。この時の道庁勤を名乗る。
 明治27年8月発行 北海の殖産 に蝦夷の経緯度を投稿
 その他不明

-----メールはここまで-----
 さて、どのような動きになるでしょうか。
 のご期待

Re: 開道150年目 投稿者: momonga 投稿日: 2018年 2月 4日(日)18時03分3秒

[返信・引用](#)

まあ、こじつけも甚だしいですね。

それならちゃんと「150年目」(を迎える)と言うべきでしょう。
 年齢でも何でも1年経ったから1歳なのであり、50年経ってはじめて50歳です。
 普通に命名150年と聞いたら「ああ150年経ったんだ」と思われるに決まっています。
 少なくとも今年中には満150年の誕生日を迎えるんだな、と受け取ります。
 誰も実際には来年が満150年とは考えないでしょう。

たぶん明治150年と語呂合わせしたかったんでしょうね。
 歴史にそんな語呂合わせしたってしょうがないと思うんですけどね・・・。

開道150年目 投稿者: [かんじ](#) 投稿日: 2018年 1月26日(金)09時53分51秒[返信・引用](#) [編集済](#)

自己レスになりますが開道150年のズレに対して、北海道150年事業実行委員会事務局から回答がありましたのでご紹介します。

<https://hokkaido150.jp/>

以下私の質問は

【タイトル】

開道150年は2019年ではないのですか？

【内容】

ご苦勞様です。今年は北海道命名150年の年として様々な行事が予定されていますが、

松浦武四郎によって北海道と命名されたのは明治2年（1869年）の事です。

そうすると命名150年は2019年ではないのでしょうか？

同時に今年は明治150年という事で政府が中心となり行事も行われているようです。

命名されたのが明治2年なら矛盾しませんか？

但し、調べたところ開道50周年は1918年に行われ、開道100周年は1968年に様々な行事が行われています。

開道150周年と明治150年の関係について教えて頂きたく問い合わせいたします。

というものでした。

それに対して事務局からの回答は

〇〇様

この度はお問い合わせありがとうございます。

北海道150年事業実行委員会事務局（道庁北海道150年事業室）の〇〇と申します。以下、お答えします。

本年、2018年に「北海道150年事業」を実施してまいります。

〇〇様ご指摘の点についてですが、

2018年は「北海道150年目」であり、「北海道150周年」ではございません。

北海道150年事業実行委員会から発出している文書等において、

「周年」という記載は用いてございません。

一方、いわゆる明治維新150年は、「明治維新150周年」のことに存じております。

〇〇様おっしゃるとおり、

開道50周年は1918年に、

北海道百年は1968年に記念事業を実施しておりますが、

いずれも、「周年」ではなく「年目」の数え方により、

当該年に実施したものでございます。

以上、ご不明な点等ございましたら、いつでもご連絡ください。

どうぞよろしく願いいたします。

☆2018年、北海道命名150年☆

というものでした。

スッキリ納得という感じでもありませんが、なるほどそういう事かです。

つまり松浦武四郎が提案し命名されたのは明治2年8月15日ですから今年は149年であるけれど、

8月15日を過ぎると150年目のカウントが始まるということです。

命名1年目というのが明治2年8月15日から明治3年8月15日

命名2年目というのが明治3年8月15日から明治4年8月15日

命名3年目というのが明治4年8月15日から明治5年8月15日

命名150年目というのが平成30年8月15日から平成31年8月15日

平成31年8月15日でちょうど150年、つまり150周年、満150年ということです。

北海道命名150年目 と言えば少しは解ったのですがね、

北海道命名150年 ではまるで150年経ったかのようなニュアンスを受けます。

それにしても今現在は149年も経っていない148年と5ヶ月目なわけで、

今年は命名150年と言われるとさすがに違和感があります。

[返信・引用](#) [編集済](#)

今年もよろしくお祈いします。 投稿者:かんじ 投稿日:2018年 1月10日(水)11時01分31秒

気付いたら前回の書き込みから2か月過ぎてますね。
ばたばたと正月も過ぎましたが、皆様宜しくお祈いします。
momongaさんは喪中ということですが、私も「旭川の歴史的建物の保存を考える会」の会長であった、川島洋一先生を昨年亡くしましたもので、心はほぼ喪中です。
ということでお祝いではなく新年のあいさつを申し上げるためにカードを作りました。
「建物は生きている」とは川島先生の残した言葉です。
ということで今年も宜しくお祈いします。

さて、最近北海道命名150周年ということで色々な催し物も用意されているようですが、なんか腑に落ちないんですよ。
今年が明治150年です。明治150年という記念行事もたくさんあるんです。
そして松浦武四郎によって北海道と命名されたのは明治2年(1869年)のことです。
なので今年が北海道命名149年だと思うんですけど、、、、。

明治元年が1868年
明治2年は1869年 2年の7月に命名
明治3年は1870年 1870年の7月で丸1年
2018年の7月で丸149年2019年の7月で丸150年
????

追伸

その後、開道50年、開道100年の記念行事を調べてみると
開道50年は大正7年(1918年)、開道100年は昭和43年(1968年)
に記念行事を行っています。
あれれ????
昔から1年ずれてますね。



今年もよろしくお願ひします 投稿者: [momonga](#) 投稿日: 2018年 1月 2日(火)09時51分59秒

[返信・引用](#)

すみません。
 すっかり書込みをサボっているうちにあっという間に年が明けてしまいました。
 m()m
 皆さま、今年もよろしくお願ひいたします。
 昨年親父を亡くしたため、新年のご挨拶は簡略にさせていただきます。

ちょっと仕事の方が立て込んでおりまして、しばらく書込みが疎かになっております。
 けっして飽きた訳でも何でもありませんので、落ち着きましたらまた歴史談義を再開いたしますので、
 皆さまこれからも時々チェックしてやってください。
 できれば話題を提供していただければありがたいです。
 よろしくお願ひいたします。

Re: 偕行社再開 投稿者: [かんじ](#) 投稿日: 2017年11月 2日(木)10時35分15秒

[返信・引用](#) [編集済](#)

momongaさんへ

- > 地図を開いても「彫刻美術館」の名しか載ってませんし、玄関前の施設名表示にも偕行社の名は書かれていません。
- > 端の方に旭川市の指定文化財の表示版があるだけです。
- > 旭川市はこの建物の存在価値をどのように考えているのでしょうか？
- >
- > こんな感じ方するのは私だけなのかなあ。

まったく仰るとおりです。
 借行社の表示ありませんでしたっけ？
 実はこの建物は上川管内で唯一の「**国指定 重要文化財**」です。

国登録 有形文化財であれば

- ・ 上川倉庫事務所
 - ・ 上川倉庫
 - ・ あさでん春光整備工場（旧陸軍第七師団騎兵第七連隊覆馬場）
 - ・ 松岡家住宅
 - ・ 最創山光岸寺本堂
 - ・ 旧岡田家住宅主屋
 - ・ 旧岡田家住宅蔵
 - ・ 山崎家住宅主屋
 - ・ 旭川市市民活動交流センター市民活動支援棟（旧国鉄旭川車両センター木機乾燥場）？
 - ・ 旭川市市民活動交流センターホール棟（旧国鉄旭川車両センター第二木機職場）??
 - ・ 北海道護国神社平成館（旧陸軍第七師団北鎮兵事記念館）？
- があります。

つまり借行社は上川管内で最も文化的価値の高い建物なんです。

もちろん登録名称は「旧借行社」です。

当たり前ですよ、建てられた本来の名前であり、現在の使用名称なんて使ったら、その度が変わってしまいますからね。

もちろんこの重要文化財には札幌の豊平館や函館の公会堂も含まれていますが、札幌や函館には他にもかなりの数の重要文化財があるにも関わらず、上川管内には「旧借行社」だけなんです。

それだけきちんと建物の価値を評価し発信する必要があるのに、旭川ではその扱いが全くなされていません。

しかし、評価する人によっては旧借行社の価値を認めている組織もあり、日経新聞の選んだ日本の**近代遺産50選**に旧借行社が選ばれています。

これは豊平館や公会堂が単なる旅館であったのに比べて、旧借行社はその役割に置いてより重要な歴史的背景を含んでいたからであろうことがサイトから読み取れます。

もっと旭川の歴史を正面から見据え「旧借行社」の価値を評価し広く利用すべきだと私も思います。

Re: 借行社再開 投稿者: [momonga](#) 投稿日: 2017年10月24日(火)21時06分8秒

[返信・引用](#)

気になってることが一つ。

借行社の再開前後にかけて新聞や広報誌等で施設再開を伝える報道が色々されていましたが、

いずれも『彫刻美術館の改修工事が終わり・・・』という言い方をしてるんですよ。

借行社については一応説明は付くものの主役にはなっていません。

おかしくないですか？

改修をしたのはあくまで国の重要文化財である旧借行社の「建物」であるはずで

す。彫刻美術館というのは、言い方悪いかもしれませんが言わば間借りしてる存在に過ぎません。

改修の主語は旧借行社であって然るべきなのですが・・・

今回借行社資料室が設けられたのは良いとして、あまりにもその扱いが小さ過ぎると思います。

地図を開いても「彫刻美術館」の名しか載ってませんし、玄関前の施設名表示にも借行社の名は書かれていません。

端の方に旭川市の指定文化財の表示版があるだけです。

旭川市はこの建物の存在価値をどのように考えているのでしょうか？

こんな感じ方するのは私だけなのかなあ。

Re: 偕行社再開 投稿者: [かんじ](#) 投稿日: 2017年10月19日(木)11時22分22秒

[返信・引用](#)

momongaさんへ

私も見てきました。(無料のうちにて訳では無く、、、)
綺麗にはなったけどほとんど変化なし、それで良いんですよね。
ちょっと事務局へ行って話を聞くことができました。
5年間にわたる修復でしたが、その内容は中央図書館へ行くと報告書という形でまとめられているそうです。
私も機会があったら見てみたいと思います。
今回は建物全体を浮かせる形で、基礎のゆがみから直したわけですが、軟石材の基礎を取り除いたところ底に栗石と呼ばれる小さ目の玉石がさらに敷き詰められていたそうで、本来は軟石材の下に厚くコンクリートを敷いて基礎とする予定だったのですが、栗石がでてきたのでそれをどうするかが問題になったそうです。

栗石と言えども当時の工事の象徴ともなるもので、保存する必要があるとの判断から栗石を残しながらコンクリートを薄く敷いて修復する事にしたそうです。
これで1年間くらいは工事が伸びたのかな。

あとは修復後は見えませんが、壁面内にブレス(筋交い)をいれて耐震性を高める工事を行っています。この筋交いも本来の部材を傷付けることなく内部に入れるために、単純な形状では無く昔の部材を複雑に避ける構造の筋交いが入っているそうです。

などなど苦勞があったのですね。

今回、偕行社を紹介する部屋ができたことは嬉しいですが、とても小さく十分ではありません。
小樽の日本郵船や函館の公会堂のように、内部も当時の雰囲気再現する努力をさせていただきたいものです。
明治44年に時の皇太子が宿泊されているのだから、その部屋を再現するとかね。
私は彫刻が理解できないので建物ばかり見ていたのですが、見学に来ていた方をウオッチングして会話を聞いていると、半数以上の方が建物を見に来ていたと思われる。
それも女性の方が建物の文様や装飾を指さしいろいろと会話しているのです。

彫刻を否定はしませんが、彫刻の価値と建物の価値、市民や観光客がどう感じているのか、市はキチンと把握する必要があると思います。
行政ですから「両方大事です」って言うに決まっていますよね。
では「現在の彫刻美術館としての使い方は、偕行社本来の魅力や価値を引き出していると思いますか？」としましょうか。

ロビーの白い彫刻も邪魔ですよ～。
偕行社の魅力に奥の階段室があります。
実にすばらしい造形美を見せています。
その前に、あの彫刻を置くって事は偕行社の魅力をぜんぜん理解していないことがわかります。

それから今回偕行社の展示室に大きな棟札が展示されました。当時を知ることできる貴重な展示です。偕行社を作ったのは「大倉組」(現大成建設)と永らくされており、後年の資料にもそう書かれた文献が多々ありますが、ここでは請負人としてハッキリ「阿部久四郎」と書かれています。
これは一説によると、第七師団全体を請け負った大倉組は巨万の富を手にするわけですが、余りにも儲かったので、偕行社は大倉組が自分の金で作り、師団に寄付を行ったという話があります。
つまりこの場合は、発注者が大倉組であり、請負人がその下の阿部久四郎であった事を示す棟札でもあります。
阿部久四郎の左2つ隣には伊藤亀太郎という名前があり、これは現在の伊藤組土建の創業者でもあります。
ただ、この建物を作った阿部久四郎は当時道内では最大の建築請負人であったにも関わらずその後会社の跡継ぎに恵まれず、その後継となる会社は現在ありません。



借行社再開 投稿者: [momonga](#) 投稿日: 2017年10月10日(火)20時27分37秒

[返信・引用](#)

ようやく再開しましたので見てきました。
再開初日はイベントもあって混み合うだろうと思い、9日に行きましたが思ったより空いてましたね。
それでも、いつもはひっそりとしているこの施設に見学者が絶えることなく訪れていました。

外観はすっかり綺麗になりましたが、建物内部はほとんど変化が見られませんでした。
国の重要文化財ですから改造はもちろん不可、元の姿を忠実に保つのが鉄則ですので当然と言えば当然ですが、
床板がツヤツヤに光ってた以外は修復の痕跡が思った以上に無かったです。
逆に言うと、床も壁も全部剥がして基礎から修復し、耐震化工事を施しておきながら見た目この変化の無さはすごい。

ただ、改造が許されないだけに、やはりこの建物は彫刻美術館には向いてないと思います。
2階大ホールの、邪魔っけなパーテーションを取り払ったのは良いとして、
写真をご覧になればお分かりの通り、広いホールに、ただ彫刻を”いっぱい置いただけ”感が否めません。
それと、1階入口を入れて真正面の階段に立ち塞がるように新たな造形物がドーン

と置かれました。

はっきり言って興ざめです・・・(ー_ー;)

今回新たに「偕行社資料室」が設けられました。
展示物は、棟札、鬼瓦、柱頭の3点のみとあとは説明パネル数枚だけ。
ちょっと寂し過ぎですね。

美術のド素人である私から見ても、これだけは分かります。
建物の素晴らしさと彫刻・造形美術の素晴らしさが完全にケンカしてますね。





《前のページ》 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 《次のページ》
以上は、新着順151番目から200番目までの記事です。

/ 32 ページ移動

新着順 投稿順 表示切替

【論・旭川】HPへ戻る 管理者へメール

[RSS](#)

管理者メニュー 自分の投稿の編集

[teacup.レンタル掲示板](#)